

☆沖縄の心は戦争につながるものをお拒否します

—阿波根昌鴻さんの言葉より学ぶ—

◆ 6月23日は沖縄県が制定した敗戦後80年の「慰靈の日」でした

沖縄の歴史上、最も悲惨な出来事は、1945年（昭和20年）3月から日本の敗戦日以降も続いた「沖縄地上戦」でした。米軍が沖縄に上陸しても日本軍は住民を守らず、何と沖縄の人口の4分の1の命（20万人以上）が犠牲となりました。

◆ すべて剣をとる者は 剣にて亡ぶ（聖書）

基地を持つ国は 基地で亡び 核を持つ国は 核で亡ぶ（歴史）

この沖縄戦、その十年後の「一度にわたり、沖縄・伊江島にて、デンマーク式農民学校が完成まじかにして破壊されて、平和運動に立ち向かった阿波根昌鴻（あはごんしょうこう）さんの言葉です。憲法施行、講話条約後、沖縄は日本より切り捨てられ、アメリカに占領されたまま、最大1300発もの核兵器が沖縄に持ち込まれ、核ミサイルが中国やソ連に誤射発射の危機にあつたことが明らかにされています。占領された伊江島にて、模擬爆弾を使い核ミサイル訓練がくり返しあがめられていることを、阿波根さんははつきり知っていました。

◆ 「ゲンバクを落とした国よりも、落させた国のは重い」と

阿波根さんが語られた言葉です。「日本戦争を起こした。そのことを忘れてはならない。原爆は悲惨であつてもう一度とあつてはならないが、そのためにこそ、だれが戦争を起こしたのかという根本のところを忘れてはいけない。そういう意味でこの言葉を書きました」心に留めておくべき言葉です。阿波根さんは、戦争をやめるために語り続けました。

◆ 戦争はなぜ 起きるのか

国の親方が、規定を作つて国内の宝者を取り上げて、尚も満足せず、国外の宝も欲しくなり、外国の親方との奪い合い始まり戦争となる。

◆ 平和はどうしたら作れるのか

党派、宗派、人種、国境、イデオロギーを超えて、助け合つたとき実現する。

◆ みんなが反対すれば、戦争はやめさせられる

平和の最大の敵は無関心である。

戦争の最大の友も無関心である。

政府は今も、日本は「中国からの脅威」がある！「台湾有事」！とおり立て、

軍備拡張が必要と唱えます。美しい沖縄の海や山を壊し、沖縄県民の民意を無視して辺野古の海を埋め立てて、戦争するための米軍の軍事基地を造り続けています。

◆ 沖縄の心とは、戦争につながるものをお拒否することです。NO WAR！

「命こそ宝」（ヌチドウタカラ、何よりも大切なのは命）です！
「命こそ宝」（ヌチドウタカラ、何よりも大切なのは命）です！

一〇一五年七月二一日（日）護憲平和行進（通算701回目）
浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市中区紺屋町三〇一ー一五

★月例護憲平和行進 每月第二日曜日・午後一時・浜松市役所正面玄関集合

